

## 令和4年度1学期始業式

新年度、令和4年度、第一学期のスタートにあたり、一言、ごあいさつを述べさせていただきます。

皆さん、どのような春休み、15日間を過ごされましたか。またこの場所で、元気な皆さんと再会できましたことを、大変嬉しく思っています。

いよいよ学年が一つ上がりましたね。そして、今日の午後には、241名の40回生が入学してきます。楽しみです。

さて、今年も、色々なことが待っています。

まず、3年生、今朝、大きな荷物も預けていただきましたが、いよいよ13日から、延期されていた修学旅行です。しっかり学び、しっかり楽しみ、生涯の思い出をつくってください。

2年生は、1月に修学旅行です。2年連続で延期されましたので、今度こそは、予定通りの日程で行けますことを祈っています。

また、今月26日には、須磨東高校との第2回交流戦です。今年は、野球、サッカーに加え、男子バスケットボール、女子バレーボールの対戦が予定されています。全校生での応援はもちろん、ダンス部、吹奏楽部にも活躍いただきます。生徒会や放送委員会もよろしくをお願いします。

そして、3月の終業式でもお話しさせていただきました、創立40周年となる今年、本校初の取組が始まります。1学期期末考査終了の翌日、ちょうど3ヶ月後の7月8日から、まずは9月23日の秋分の日まで、私服での登下校が可能となります。生徒会が中心となり進めながら、皆さんひとりひとりの大きな成長、ひいては本校の更なる発展のエネルギーとなることを強く願っています。

今日は、新年度初日、クラス替えもありますので、覚えていただけますでしょうか…久しぶりに「旅人の話」を聞いてください…

ある町がありました。一人の旅人がその町にやってきました。

町の入口の門のところ一人の老人が立っていました。

旅人は老人に聞きます。

「おじいさん、この町はどんな町？」

すると、逆におじいさんは旅人に聞きます。

「あなたが、いままでいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました。

「いやあ、前にいた町は嫌な人ばかりで、ろくな町じゃなかったよ」

おじいさんは旅人に言います。

「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」

また別の日に、違う旅人が来ました。

旅人が老人に聞きます。

「おじいさん、この町はいったいどんな町ですか？」

逆に、おじいさんは旅人に聞きます。

「あなたが、これまでいた町はどんな町でしたか？」

旅人は答えました。

「私がこれまでいた町は、すばらしい町で、人々は親切で、あんなによい町はありませんでした」

それを聞いたおじいさんは旅人に言います。

「そうですか、この町もあなたが前にいた町と同じ町です」

さあ、皆さん、どんな感想を持たれましたか。これは、“心の持ち方”“考え方”が、いかに大切かを考えさせられるお話です。

周囲の人に対し、置かれている環境に対し、自らを振り返ることなく、常に不平不満を口にし、取り組まなければならないことをおろそかにする人、逆に、周囲の人、置かれた今の環境に「感謝」の心を持ち、うまくいかない時は自らを反省しながら、取り組まなければならないことを誠実に継続する人

…この違いを高校3年間続けると、歩む人生に大きな差が生じます。

新年度は、新しいクラスです。「前のクラス、どんなクラスだった？」こんなやりとりがあるかもしれません。いつも、皆が楽しく過ごせ、活気あるクラスにするよう努めている人は、「いい友達ばかりで素晴らしいクラスだった。だから、新しいクラスもいいクラスにしよう！ きっといいクラスにできるよ！」と答えるのではないのでしょうか。その逆は…「最低のクラスだった。いやなやつばかりだった…」こんな感じでしょうか…この人は、1年後にも同じように、「前のクラスは最低で…」と語るのではないのでしょうか。

皆さん、協力して仲良く、さらに楽しいクラス、学校にしていきましょう。皆さんひとりひとりに秘められた素晴らしい能力は、楽しみながら取り組む中で、大きく開花するようになっているのです。抑圧、強制、いがみ合いの環境下では、大きな成長は期待できないのです。

そして、人間関係は財産です。とりわけ、高校時代の「友」は、生涯の「友」となります。同じ時代に同じこの国で、同じ須磨友が丘高校で出会う確率は、まさに奇跡的な確率であり、この深い「ご縁」を大切に、一人でも多くの生涯の「友」をつくってください。

そのためには、まずは挨拶、クイックスマイルを忘れず。挨拶をした数だけ、魂が高めることも知っておいてください。

それでは、楽しく、充実した学期となりますことを祈念し、以上、令和4年度第一学期始業式の「式辞」とします。

令和4年4月8日

兵庫県立須磨友が丘高等学校校長 川崎 芳徳